

来ました。無作為に選んだ1万人の市民の声を市政に反映させるための質問に回答するというものでした。そこで、日常生活に直結した内容が主である質問「テーマ」の中に「生物多様性について」がありました。目的は「生物多様性の保全を推進する上での参考にするために」ということでした。市のホームページで過去の同アンケートを見たところ、このような自然保護についての直接的な設問はありませんでした。

さて、答えを記入した後、本誌48号の「特集 生物多様性とは」を開いてみました。目を引いたのは「札幌市円山動物園の取り組み」についてです。「……動物園では2006年から市民、経済界、学識経験者、教育界など幅広い分野の人たちの意見を取り入れた改革が進んでいる……」という詳しいレポートで、官と民が協働しての事業という興味深い内容でした。

守られた自然の中に立った時、そこには保護活動があったのを感じことがあります。同じことを「市のアンケート」や、「動物園での取り組み」に感じたことでした。

本会誌は50号の区切りを迎えられ、自然保護活動の為の役割は益々大きなものになっている事と思います。私にとって難しい本ではありますが、植物を観て歩く事を趣味にしている者として、折に触れ開いてみなければと思う本にもなっています。最近の号では、用語解説の脚注や、子供向け記事など読者の要望を紙面に反映して下さる工夫で、開いてからすぐに読んでみたいページも増えました。これからも変化のある紙面を楽しみにしています。

## 会誌「北海道の自然」によせて

◎  
竹吉 祐子  
(札幌市)

会員になった当初、本会誌は私にとってあまりに専門性が高く、ざっと目を通すという事さえ難しいものでした。歯がゆく残念に思いながらもしばらくは、取りあえず本棚の「余裕のある時に読む本コーナー」に収めて、の繰り返しでした。それが、興味のある部分だけを飛び飛びにという読み方でも、と思うようになり、いつの間にか「本棚の取りやすい場所」に置くようになりました。

きっかけは、本会主催の生物や植物の講演会でした。会誌に論文やレポートを書かれている先生達のお話がとても分かりやすく面白かったのです。生物や植物が生息している現地に何度も行かれて見聞きされた事の、自然に対する愛情にあふれたお話ばかりでした。そして、その生息地を含む自然を破壊する行為、特に公共事業などに対して、ただ反対ではなく、現地の調査を基に現実的で具体的な提案や意見をもって取り組まれておられるのを知ったからでもありました。

昨春のことですが、私に「札幌市 平成23年度第一回市民アンケート」という調査表が送られて